

廃棄物の最終処分について

弊社の産業廃棄物の処理方法は、鉄スクラップ(製鋼原料)から「鉄鋼製品」を生産する製鋼用電気炉の溶鋼熱を利用して、産業廃棄物を溶融処理するものです。

製鋼原料をアーク熱で溶解、1600℃の溶融状態にし、そこへ廃棄物を同時投入して、溶鋼の熱を利用して溶融処理します。

投入量は製鋼原料 109t に対し原料の重量比 2%の廃棄物 2.18t を合わせた約 111t で、投入から溶融処理・出鋼まで約 1 時間程度です。出鋼前の成分調整の時間を除くと約 50 分程度で廃棄物は溶融されています。

一般的な焼却施設が約 800～1000 度であるのに対し、溶鋼温度 1600℃と高く、またアークの中心温度は約 4000℃とも言われているため、廃棄物の全てを溶融し、燃えながら(焼却灰)が発生しないことが弊社処理の最大の特徴です。

しかしながら、製鋼過程では鉄分以外の不純物としてスラグ(鉱さい)約 6,000kg が抽出されます。このスラグは破碎処理後に有価物(路盤材)として再生されています。スラグの成分は原料由来の酸化鉄と酸化マンガン、成分調整のために添加された石灰で大半を占めており、一部若干量のガラス・セラミックなどの成分も含まれています。

弊社での廃棄物の取り扱いはその多くが医療廃棄物であり、プラスチック等の樹脂成分がほとんどです。そもそもの廃棄物の投入量が 2%と少なく、更なるその廃棄物の中に含まれるガラス成分はさらに少なくなるため、廃棄物からスラグになるものは微量でほぼ無いとして良いとの考えから、許認可管轄行政である大阪市より最終処分は不要であるとの承認を頂いております。

上記の理由により、 manifests の E 票の最終処分場については中間処理場と同場所とさせて頂いておりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

尚、ご不明な点がございましたら大阪市環境局 産業廃棄物規制グループ(TEL 06-6630-3304)までお問い合わせ下さい。

大阪市西淀川区佃 6 丁目 4 番 8 号
株式会社共英メソナ
代表取締役 高島 浩司